

清川村立緑小学校

研究テーマ：「自立・協働・創造」

～清川村から羽ばたく児童の育成～

1 実践の目的

本校では、主体的に生きるために「自立・協働・創造 ～清川村から羽ばたく児童の育成～」を研究主題として設定した。「自立」とは、自分の考えをもち、課題に向かう力である。そのために、自分の意見を表現したり、学びを振り返ったりする活動を充実させたい。「協働」は、他者と関わり、よりよい考えをつくる力である。グループでの話し合いや対話活動を通して、互いの考えを受け止め合う姿勢を育てていきたい。「創造」は、新しい考えや解決を生み出す力である。意見をまとめたり、地域と関わる学習を行ったことで、学びを社会につなげる力を育てていくことを目指した。

この主題に迫るため、「各教科や特別活動を通して、多様な他者と協議や交流をし、表現する場や学び合いの場の工夫を重ねていけば、児童は自分自身の成長を実感し、主体的に生きるための『自立』『協働』『創造』の力を育むことができるだろう」という仮説を立てた。その過程で得られる達成感や貢献度は、自己有用感を高め、自分の存在が周囲に役立っているという実感を育むだろう。また、学習活動や地域行事への主体的な参加を通して、課題に粘り強く取り組み、最後までやり遂げる態度が養われるだろう。このような実践の積み重ねは、他者との関わりを通じて自己を見つめ直し、自らの成長を実感する学びにつながると考えた。

そして、本校が位置する清川村の自然や人、文化と関わる学習を通して、ふるさとを愛し、自分たちの力で未来を切り拓こうとする児童を育てることも重視している。地

域とともに学び、地域に貢献する経験は、児童が自分の成長を実感し、自信をもって社会へ羽ばたく原動力となる。

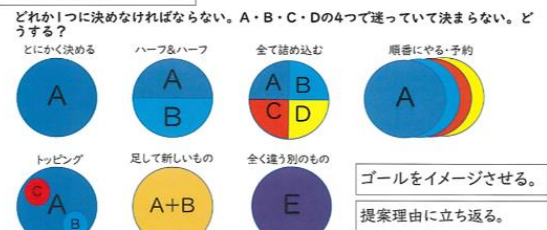
本研究を通して、児童一人ひとりが「自立して考え、協働して学び、創造的に行動する力」を育み、清川村から未来へ羽ばたく姿につなげていく。

2 実践の内容

(1) 異学年での話し合い活動

- ・小グループ・縦割り班で話し合い、考えや意見を共有する。
- ・合意形成の型を示したピザ型パターン図や意思表示しやすいように色カードを活用。

合意形成のゴール



- ・3・4年が企画・運営するグループ活動（PA：プロジェクトアドベンチャー）を実施し、上学年はフォロー役、下学年は学びの場とした。

(2) 合意形成を意識した活動

- ・話し合いの目的や議題を明確にし、児童が自分で考え、合意形成できる力を育成。
- ・研究授業や学習室活動でも、試行錯誤や全体共有の機会を設けた。

(3) 縦割り・異学年活動

- ・体育やGK（グリーンキッズ：緑小学校の縦割り活動）などで、低学年は上学年の姿を見て学び、高学年はリーダー性を育む場を設計。
- ・固定的な人間関係を意図的に再構築し、互いに刺激を受ける経験を提供。

3 実践の成果

(1) 異学年活動による成果

- ・高学年のリーダーシップや企画・運営力の向上。
- ・下学年は上学年の姿から学び、意欲的に参加する姿が見られた。
- ・話し合いの組み合わせが広がり、発言が特定の児童に偏ることを防ぐことができた。

(2) 合意形成による成果

- ・ピザ型パターン図やモデル図の活用で、合意形成や意思表示方法の理解が進んだ。
- ・未来志向で建設的に話し合う姿勢が育った。
- ・各教科や学級活動で、児童が自分事として考え、試行錯誤しながら成果を生み出す経験を積むことができた。

(3) 学びの広がり

- ・小グループ・異学年活動を通じて、主体性・協働性・創造性の育成に効果が見られた。
- ・日頃の指導や学習場面で応用につながった機会が多く、将来的に地域づくりなどにも活かせる基礎が形成された。

4 今後の展開

来年度は、今年度の実践を基盤として、児童一人ひとりが主体的に学び合い、考えを表現し、協働して成果を生み出す力をさらに育成していくことを目指す。そのために、まず合意形成力やコミュニケーション能力を育む活動を中心に据える。具体的には、3・4年生を中心とした企画・運営型活動（PA）のような機会を増やし、児童が自ら計画を立て、役割分担を行い、チームで協働して目標を達成する経験を積むことを重視する。活動の中で高学年はフォロー役や助言者として関わり、低学年は上級生の姿を手本として学ぶことで、学年間の交流を通じた相互学習を促す。

さらに、異学年活動や小グループでの話し合いを継続的に行い、児童が自分事として考え、意見を発信し、他者の意見を尊重しながら合意形成を行う力を育てる。活動の設計においては、話し合いの目的や議題を明確にし、児童が理解しやすく、参加しやすい環境を整える。ピザ型パターン図や色カードなどのツールを活用して議論の型や意思表示を可視化することで、初めての児童でも安心して発言できるようにする。

日頃の指導や授業、特別活動の場面でも、合意形成やコミュニケーションの工夫を取り入れることで、学んだ力を生活全般に生かすことができる環境を作る。例えば、算数のまとめ学習や朝活動、体育館使用時など、日常のさまざまな場面で異学年交流や協働活動を取り入れ、児童が自ら考え、行動する機会を増やす。また、支援が必要な児童に対しては個別の配慮や班構成の工夫を行い、すべての児童が安心して参加できる環境を保障することが重要である。

教師間での情報交換や助言の機会も定期的に設け、指導方法や声かけの工夫、活動の仕掛けなどを共有することで、日々の指導に生かし、実践の質を高める。活動の振り返りでは、児童の思考の変化や主体的な関わりを記録し、次年度の計画や改善に反映させる。こうした取組を通じて、児童が自立・協働・創造の力を日常生活や学習活動の中で発揮できる基盤を形成することを目指していきたい。